

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和3年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	学習に取り組む態度の育成および教師の指導力の向上	
現状	・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨めていない生徒がいる。 ・教員の年齢層が大きく2つに分かれており、ICT機器の利用にも大きな差がある。両者についてそれぞれの課題に応じた授業における指導力の向上が必要である。	
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたりの家庭学習時間 (家庭学習には放課後に自主的に行う学習も含む)	②タブレットを利用した授業の満足度の向上 ・タブレットの利用の満足度を3点満点で評価 (各学期末に取り組み状況で調査)
	・各学年平均600分以上	・各学年2.5点以上(3点満点)
方策	・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、家庭で学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習・生活実態調査を実施し、生活指導を合わせたきめ細かな面接指導・助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。	

令和3年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について	
現状	・自転車や徒歩による登下校時の交通ルールに対して、安易な行動が時々見受けられる。 ・周囲には商店や高校生が利用できる施設等も少なく、スマホや携帯といった通信機器に依存し、トラブル等に巻き込まれやすい環境にある。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が深いものとなりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・精神的に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・自主的な健康管理ができず、睡眠不足による体調不良を訴える生徒が増えている。また、食に対する正しい知識が乏しく、不適切なダイエットを試みる生徒もいる。	
達成目標	①悩みを相談しやすい学校づくり ・全員面談の回数	②睡眠時間と朝食の喫食状況の改善 ・23時までには就寝し、かつ、翌日の朝食を喫食した人の割合
	・年5回以上	・寮生80%以上、通学生70%以上
方策	・日頃から生徒に声がけをし、悩みを訴えやすい雰囲気づくりに努める。 ・定期的に面談をする計画を立てる。 ・スマホの使い方も含め、いじめの加害者にならないような指導も行う。 ・何かあった場合の対応策について周知を図り、迅速に対応できる体制を整えておく。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 南砺平高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚および生徒個々の希望進路に応じた力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先が大学から就職まで多様で、学力差も大きく、十分な対応ができていない所もある。 ・進路に関する生徒と保護者との認識のずれ等の要因により、進路先決定までに時間がかかり過ぎている。 ・社会情勢に関心の低い生徒が多く、毎日ニュースを見る生徒は50%程である。 ・外部模試は、令和元年度より希望制とした。また、令和元年度から1・2年生に導入した「高校生のための学びの基礎診断」を基礎力診断テストから、1学期にスタディサポート、3学期に実力診断テストに変更し、生徒の基礎学力の判断指標とし、教科指導に生かす。 ・従来、検定試験として、1年生に実用英語技能検定(10月)、2年生に日本漢字能力検定(2月)を全員受検とし、他の回は希望制としてきた。希望制の検定試験として、数学検定、世界遺産検定、ビジネス系の検定を実施している。検定試験を通して、主体的に学習に取り組むことで、基礎学力の充実を図る。 	
達成目標	①一人一人に対応した進路指導の充実 ・保護者同意の進路希望先決定率	②基礎学力の充実 ・高校入学から卒業までに、各種検定1種目以上(3級以上)取得した3年生の割合
	・3学年 90%以上(7月末) 進学希望者は第1受験希望校を決定する。就職希望者は入社希望企業業種を決定する。 ・2学年 80%以上(12月末) 進学希望者は進学希望校種・学部・学科・コース等を決定する。就職希望者は就職の意思決定をする。	・70% (現3年生の昨年度までの取得率 60.0%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、卒業生と語る、オープンキャンパスやインターンシップなどを通して、進路意識の向上を図る。 ・希望進路先に対する基礎学力の状況を家庭学習時間調査結果や外部模試・検定を通して把握する。 ・進路希望調査(4月・7月・12月)をもとにした進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できるようにする。 	

令和3年度 南砺平高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に、生徒が主体の学校作りを目指しており、生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分が多い。 ・小中高合同運動会、球技大会、ボランティア活動、文化発表会など、生徒会が積極的に取り組んでいる行事が多い。 ・放課後、部活動のない時間帯に学習せず、スマホをさわっている生徒が見受けられる。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 	
達成目標	①生徒が作るネットルールを、「守れた」または「だいたい守れた」生徒の割合	②年間10冊以上の本を借りる生徒の割合(買った本を含む)
	・80%以上	・70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と教員が一体となって呼びかける。 ・毎学期ごとにアンケート調査を行い、振り返りの場を設定する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書週間を毎学期実施し、生徒全員が読書に取り組める機会を設ける。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫の蔵書を充実させる。 ・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)	
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における衛生管理の徹底
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は12月と3月に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 ・本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、閲覧する保護者の数を増やしたい。 <p>《昨年度2回の調査結果》 月に一度以上閲覧する保護者 1学期末・・・47% 2学期末・・・52%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から世界的な新型コロナウイルスの蔓延により、生徒寮内ではその対策と食品の管理に対する衛生指導に重点を置いてきた。寮生はウイルスと食中毒への危機感を感じながらも、生徒寮内では感染者や食中毒等が出なかったことで、気が緩んだ様子も若干うかがえる。命に関わることを最優先し、昨年度以上に予防することに努め、万が一感染者が出た場合の拡散を防ぐためにも予防を更に習慣化する必要性が感じられる。
達成目標	①HPを閲覧する保護者数の増加 ・HPを毎月閲覧すると回答する保護者の割合(学期末保護者会時に調査)	②自己の健康管理と病気に対する予防 ・健康管理と病気に対する予防が「できた・ほぼできた」と回答する生徒の割合(1ヵ月ごとにアンケート調査) (手洗い<帰寮時・食事前>、うがい<帰寮時>、検温<朝夕2回>)
	・60%以上	・100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のHPに学校行事等の記事を1ヶ月に1度以上掲載し発信する。 ・更新状況を保護者に安全メールで知らせる。 ・学期末保護者会で、各月にHPを訪問した回数、記事を調査する。 ・各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒寮内に注意喚起の張り紙をする。 ・毎日(朝、夕)の体温を記録用紙に記入し、舎監の職員は学習時間と施錠時の2回点検する。 ・舎監の職員は寮内放送や点呼時に、寮生は役員を中心に在寮時や点呼時に、手洗い・うがい・検温を呼びかける。 ・舎監の職員による指導の温度差を少なくするため、必要に応じて舎監職員に対して指導の徹底を呼びかける。 ・寮生会議等を通じて、新型コロナに対する情報を寮生に提供する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)